

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年 3 月 17日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490900234		
法人名	株式会社サンクリエイト		
事業所名	あやめが丘グループホーム		
所在地	広島県三原市沼田西町惣定66番308 (電話) 0848-86-1211		
自己評価作成日	令和2年2月18日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490900234-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年3月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

基本理念に掲げた、「出会い」・「ふれあい」・「助け合い」の気持ちを大切にしケアに取り組んでいます。家庭的な環境の中で無理なくゆったりとした時間が過ごせ、入居者と職員の関係がご家族様に少しでも近づき、笑いの絶えない生活がおくれるよう支援しています。また、近隣の一般ボランティアや学校やこども園との交流も年々関わりが深まり、行事など事ある事に参加してくださりこども園とは互いに行き来しながらふれあい交流の場を設けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

理念に掲げている、出会い・ふれあい・助け合いとは、事業所に関わる全ての人との愛情ある人間関係の構築と位置づけており、管理者を初め全てのスタッフが共通認識し、接遇・コミュニケーション・ケア等に活かしている。この考え方は対入居者だけではなく職員間でも意識され実践されている。隣接しているこども園とは、朝の挨拶から季節の行事まで互いに往来し、深く交流出来る関係性が構築されている。サービス内容では食事を楽しむ工夫として、多くの皿や器からその食事に合った物を入居者と一緒に考え選んでいる。入浴に関しては異性の支援に抵抗がある場合は、2つのユニットで協力して同性支援を提供している。また浴槽は浴室の中央に位置し、入居者が重度化しても身体的負担を軽減し入浴出来るよう工夫されている。

自己評価	外部評価	項 目（ すずらん ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	各職員の名札の裏に、施設の基本理念「出会い」「ふれあい」「助け合い」を記載し、都度個々が振り返り理念に沿った支援が出来る様に心がけています。	会社の理念を基本にして、各ユニットで目標を掲げ半年に1度確認している。会社の理念を全職員が統一して理解出来るよう機会を設けており、各サービスにどのように反映させるかの話し合いや助言等行われている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事等、地域の方に声をかけて頂き、参加させてもらっています。又、隣接のこども園や施設の行事で、園児さんやボランティアの方と交流しています。	隣接しているこども園の子供達と朝の挨拶から定期的な行事等の交流が図られるよう取り組んでいる。	あやめが丘グループホームとこども園との交流を地域全体に周知し広げている。更なる交流や機会の場とすることで入居者の生活の質の向上にも繋がるので、グループホームという社会資源を地域で活かせるように取り組むことを更なる期待とする。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	管理者が地域の集会所や民生委員の方を通じ認知症への理解や支援方法などを話し合い地域貢献できるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二カ月に一度、ご家族代表、民生委員、町内会長、包括支援センター、市役所職員に参加して頂き、沢山の皆様のご意見を頂き、より良いサービスが提供出来る様話し合いをしています。	運営推進会議では、事業所の現状報告の後、課題や問題点等を挙げ参加者からの意見をサービスに活かせるように取り組んでいる。不参加者には会議資料と議事録を渡しており共有している。また事業所の職員も会議録に目を通し印鑑を押している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	こちらから疑問や相談があれば高齢者福祉課の職員に相談・助言を頂くなど普段より連携が取れる様努力しています。	事業所での運営上、解らないことがあれば市町に確認し運営に活かしている。感染症等の正確な情報収集にも力を入れ、入居者の処遇に活かしている。また、市町の開催する研修会等にも参加し、事業所と顔を覚えてもらうよう積極的に関係性の構築に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(すずらん)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員同士の声掛け、見守りで離設を防ぎ、互いに知識を教え合い身体拘束をしないケアの実践へと努めています。	防犯上、夜間のみ玄関の施錠を行い日中は自由に出入り出来る体制をとっている。身体拘束の前段階である不適切ケアにも意識し、研修等参加して得た知識を職員間で共有しサービス向上に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の講習に参加したり、資料に目を通す等、常に職員同士で学ぶ姿勢を持ち、声を掛けあい防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設全体で勉強会を行う時間を設けて色々な制度を学習出来る様に、勉強会の内容に入れていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	必ず管理者が、入居前・入居時・退居時に十分な説明を行い納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	フロアーにご意見箱を設置しご家族からの要望等は、職員一人ひとりが把握出来る様、申し送りやノートを活用し、反映出来る様にしています。	各ユニットの意見箱設置以外にも、季節毎の衣類の交換等、家族へ面会の機会を設け意見を聞いている。毎月の請求書の中に入居者の各担当者が手紙を入れ近況も報告し、家族との意見交換を行っている。また、家族からの意見を専用のノートにまとめ、職員間で情報共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目(すずらん)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員からの意見や提案を聞いて、業務連絡を行っています。又随時、担当者会議を行い、運営に関する連絡なども行っています。	会議等で管理者が職員の意見を吸い上げ経営者へ報告し、後日経営者より必ず意見が伝えられる。また、日々の業務の中でも積極的にコミュニケーションをとり、お互いが意見交換するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者によるヒヤリングを通し、職員から個々に話を聞き、可能な限り環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時、研修への参加を促し、時には勉強会を行い、職場でも活用する様に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の町内会やボランティアなどを通じて、交流や情報交換を行い、同業者と交流する機会を作って頂く様に相談してもらいながら各方面の情報交換を行うように努めています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	管理者が、施設見学の際などに入居されるご本人と面談を行い、ご家族様を含め納得・安心して頂ける関係づくりに努めています。		

自己 評価	外部 評価	項 目(すずらん)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前に、サービス内容を詳しく説明し、ご本人や家族様の要望などその都度確認し、信頼関係が保たれる様に努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居される前に、必ず居住されている所へ行き、面談を行い入居され必要とする支援を含めたサービスプランになるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の体調も考慮し可能な限り、家事や展示する作品作り等、様々な事に協力して頂き、職員とも共同生活をしていると感じて頂けるような環境づくりをし、良い関係が築けるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話等で、その都度近況を報告し、ご家族とも良い関係を築けるよう努力しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人やご家族様の希望がない限り面会者の規制は行わず、近所の方や知人の方等、面会に来られた際には、話をしやすい様に環境を整えたり、ご本人の希望があれば、お手紙を送れるよう声かけ・支援を行っています。	ご本人や家族の希望が無い限り面会者の規制は行わず、誰でも気軽に面会出来る環境を整えている。都合上面会が難しい場合は電話にて話が出来るように支援を行っている。外出、外泊も積極的に推奨し、馴染の関係性の継続に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(すずらん)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	見守り・声かけを行い、入居者が孤立を感じる事のないように、入居者同士や職員との関わりを通し穏やかで安心した生活を送って頂けるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されても情報書類は保管し、ご家族の相談の連絡があれば、相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者それぞれに担当の職員を決め、一人ひとりと向き合い本人の意向を少しでも多く把握出来る様努め、それをケアに反映できるようにしています。	3ヶ月で入居者の担当を替え、全職員で情報共有が行える体制をとっている。入居者から意向を聞く機会は1日中あると考えており、支援を行いながらいかに意向を聞き出せるかに意識してサービスを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前のアセスメント時や入居時のアセスメントで、ご本人やご家族にこれまでの暮らしをお聞きしたり、普段のコミュニケーションにより、情報収集出来る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人の無理のないよう、見守り・声かけを行い、ご本人のペースで家庭での生活に近い状態で日常生活を送って頂いています。		

自己 評価	外部 評価	項 目(すずらん)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者それぞれの担当者がモニタリングの見直しを行い、月に一度のフロアーミーティングで意見交換をし、その都度計画作成担当者へ相談し介護計画を作成しています。	担当の職員がモニタリングを行い、計画作成担当者と意見交換を行う。また、事業所に来る医師、薬剤師、訪問看護等の専門職へ相談し、より質の高い介護計画が作成出来るように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やご本人の訴えや対応など、個別に記録し、職員同士、申し送りノートを活用し、情報を共有して、介護計画の見直しにも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に対応するニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	随時、ご家族やご本人よりサービスの変更や追加等あれば、そのニーズに対応し、支援が行えるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご本人の意思を尊重し、出来る事は積極的に行ってもらい、難しいところは見守り・支援を行うことで職員はご本人が、心身の力を発揮出来る様支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月二回、協力医院の往診や、必要に応じて歯科往診もして頂いています。急変時の連絡も密に行い、症状によっては他病院への紹介なども行っています。	契約時にかかりつけ医についても説明し、希望があれば入居後も継続して地域の医師に担当をお願いしている。入居中に入居者の状態変化等で医師の変更が望ましい場合は、本人、家族に対し変更する根拠の説明を行い、書面にて同意を得ている。	

自己評価	外部評価	項 目(すずらん)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調不良や普段とは違う症状等があれば、その都度看護職員や主治医の先生へ相談し、適切な指示やケアが受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係者と情報交換し、互いに看護・介護サマリーなどを送り、必要時退院前のカンファレンスに参加させて頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際に、重度化した場合の受け入れ可能な施設への申し込みを行って頂く様話をしたり、各事業所にも空き情報を聞くなどの支援にも取り組むようにしています。	契約時に看取り介護についての説明と同意を書面にて交わしている。重度化した場合は、都度家族から意向を聞き、希望があれば入居者の状態に合った施設への移行支援も行う。また、勉強会で看取り支援を学び職員の不安を取り、チームで支援出来るように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修にて救急隊員の方から急変時の対応やAEDの使用方法を職員全員が学習し、随時施設内で介護職員による急変時の対応の勉強会を開いています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を楽しんでいる。	半年に一度、災害訓練を行い、マニュアルを作成し、職員がそれぞれ対応出来る様体制をつくり、年に一度隣接のこども園と合同で災害訓練を行っています。	市町のハザードマップを活用し、様々な災害に備え避難場所を選定している。災害時のマニュアルの保管場所を全職員が知っている。また隣接するこども園とも共同で訓練しており協力体制の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目（ すずらん ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「親しき仲にも礼儀あり」の言葉を意識し、入居者一人ひとりに対し尊重し、又身近な職員間にも同様に対応しています。	事業所は言葉使いを意識しており、対入居者は勿論、職員間の言葉使いにも社会人として恥ずかしくないよう、研修会を行い取り組んでいる。異性の支援者では恥ずかしいという入居者には2つのユニット間で協力し同性の支援者へ都度代わっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様より思いや希望の訴えなどがあれば可能な限り提供し、選択肢の中で自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者一人ひとりの思いや体調、今までの暮らし方に考慮し、ご本人の希望やペースに沿って支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理容や美容、日常の中で髪の毛の整え方や思いの服を着て頂けるように声かけ・見守り支援を行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みの物をお聞きし、変更できる場合、変更し食事で提供したり、おやつ作り（たこ焼き・ケーキ・ぜんざい等）を共同で作っています。又、食事の際には、テーブル拭きや食器洗いを手伝って頂いています。	ご飯とお味噌汁は手作りで提供しており、具材を切る等も入居者と一緒に行っている。食においての見る楽しみにも意識し、多くの種類の皿や器を使用し工夫している。また、移動販売のパン屋が月2回事業所に来る際は入居者が直接見てパンを購入し楽しみに繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目(すずらん)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	アレルギーのある方、摂取カロリーの制限のある方等、個々に合した支援を行っています。又、一日1000ml以上水分補給して頂けるように声かけを行い、摂取量をその都度確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	必ず起床後・毎食後に声かけ、一部介助にて口腔ケアを行って頂き、夜には義歯の洗浄を行っています。必要時には、イソジンでのうがいをして頂き、口腔内の清潔に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	声掛けや本人の希望により、トイレ誘導を行い、必要時には、排泄時に職員が付き添い、なるべくトイレでの排泄援助を行っています。	入居時から個々の排泄パターンを理解するために排泄の情報を記録し、個々に合ったパットを選定している。また自立支援の視点から、本人が使いやすいパットやリハビリパンツを選定することにも意識している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事量や水分摂取量を随時確認し、申し送り等で、職員同士が声を掛けあい、体操などでも便秘の予防を図っています。また、主治医と相談し指示があれば緩下剤も利用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週二回は入浴を実施し、本人の希望やペースで入って頂けるように、午前や午後、1対1の対応や同性の職員での対応により、ゆっくりと安心して入浴して頂いています。気分転換に、フロアで適時足浴も実施しています。	異性支援に抵抗がある場合には、2ユニット間で協力しながら同性にて支援するよう対応している。浴槽は浴室の中央に位置し、入居者が重度化しても入浴支援がスムーズにでき、入居者の負担も軽減出来るよう工夫されている。また季節感を出すためにゆず湯等の提供も行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目(すずらん)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ご本人の希望も聞き入れながら 無理なく生活が送れるように努 め、室内の温度調整や一人ひと りが安心して休息できるように 個室対応で支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	主治医が処方した内服は、かか りつけの薬局で管理してもらい 、薬の効果や副作用の職員がい つでも確認できるようにファイ ルに保管しています。不明な点 等、薬局の方に相談し、助言を 頂く事もあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	家事やぬりえ、歌や体操、季節 の展示品の作成等、一人ひとり の無理の無い範囲で本人の力を 活かし、気分転換をしていただ けるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける るように支援している。	日光浴や散歩、車でのドライブ 、行事（初詣・花見）等で市内 外へ行くこともあります。職員 と一緒に買い物へ行かれたり、 庭の畑仕事が出来るように環 境を整えています。	隣接するこども園の子供達に朝 の挨拶で1日が始まり、定期的 に往来している。個々の入居者 の希望に沿い、畑仕事や食事用 の買い物や散歩等を行っている。 また、本人、家族からの外出、 外泊の希望があれば積極的に支 援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	ご本人のお金の所持はトラブル の原因となるので行っていません が、ご家族からの預り金を施設 で管理し、必要な際には出す ようにしています。		

自己評価	外部評価	項 目(すずらん)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人が希望されれば電話や手紙のやり取りが出来る様支援し、電話の際には、やり取りがしやすい様環境整備にも努めています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一日適時に換気を行い、毎朝掃除を行っています。季節の花や季節の物を入居者と一緒に作成し展示を行っています。季節感も感じ、共同で作成することで、居心地よく過ごして頂けるように工夫しています。	共用の空間には季節が分かる物を入居者と一緒に作成し飾っている。ソファの位置は日当たり等も考慮して配置している。また、消耗品を交換する際は入居者からの意見を聞き、色や形などに反映させて居心地の良い空間づくりの工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル席やソファ等、ご本人の好みのところへ自由に座って頂き、会話をしたり、テレビを観たり、趣味活動が出来る様に支援しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスや衣類、居室内の椅子等、使い慣れた物や好みのものを使用して頂き、ご本人が居心地よく安心して過ごせるように工夫しています。	契約の際に、自宅で使い慣れている物や本人が大切にしている物等持ってきてもらうように伝えている。良質の睡眠が提供出来るように、数種類のベッドとマットから本人、家族の意見を踏まえ選定し提供している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりやバリアフリー等の環境整備で、安全な環境作りを行っています。		

V アウトカム項目(すずらん) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に なげている。	職員の名札の裏に、施設の基本理念を記載し、個々が都度振り返り理念に沿った支援が出来るよう努力しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事等、声を掛けて頂き、参加させて貰っています。また、隣接のこども園の行事、施設の行事につきましては、園児さん、ボランティアの方々と、交流を深めさせて頂いております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	当施設の管理者が、地域の集会所や民生委員の方を通じ、地域貢献出来るように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二カ月に一度、ご家族代表、民生委員、町内会長、包括支援センター、市役所職員の方々に参加して頂き、より良い支援が出来るよう話し合いを行っています。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	高齢者福祉課の職員の方々に、相談、助言を頂き連携が取れるように努力しています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員同士の声掛け、見守りで離設を防ぎ、お互いの知識を認め合い、身体拘束をしない支援の実施に努めています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の講習に参加すると共に、新聞、資料に目を通す等、常に職員同士で声を掛けあい防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設全体で勉強会を開催し、いろいろな制度を取り組み学習できる内容で、取り組んでいます。今年に入りインフルエンザの関係で開催できず、連絡ノートを活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	当施設の管理者が、入居前、入居時、退居時に十分な説明を行う事で、ご理解を頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	共有スペースに、ご意見箱を設置し、ご家族からの要望等は職員一人一人が把握出来るよう、毎日の申し送りや、ノートを活用し、反映できるように努力しています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	意見、提案、業務連絡を行う場を設けています。又、随時担当者会議を開き、運営に関する連絡なども行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者によるヒアリングを通し、職員から個々に話を聞き、可能な限り環境、条件の整備に努めています。日々のコミュニケーションを欠くことなく努力しています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時、研修や勉強会を行い、職場でも活用できるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域の町内会や、ボランティア様を通じて、同業者と交流する機会を作って頂き情報交換を行っています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	管理者が、施設見学の際などに、入居されるご本人様と面談を行い、納得、安心して頂ける関係作りに努めています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前に、内容を詳しく説明し、要望等その都度確認し、信頼関係が保たれるよう努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前に、必ず居住されている所へ伺い、面談を行い入居され必要とする支援を含めたサービスプランになるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の可能な限り、家事や展示する作品作り、様々な事を行なって頂き、職員とも共同生活をしていけると感じて頂けるような環境作りをし、良い関係が築けるよう努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や電話等で、その都度近況を報告し、ご家族様とも良い関係を築ける努力をしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近所の方や知人の方等、面会に来られた際には、話しやすいように環境を整えたり、ご本人の希望があれば、お手紙など送れるよう声掛け支援しています。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	見守り、声掛けを行い、入居者様ご本人が、孤独を感じる事のないように、入居者様同士や職員との関わりを通し、穏やかで安心した生活を送って頂けるように寄り添う支援に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されても情報書類は保管し、ご家族様から連絡があれば、相談や支援に努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様それぞれに担当の職員を決め、一人一人と向き合いご本人の意向を少しでも多く把握出来るよう努め、ケアに反映できるようにしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時のアセスメントで、ご本人様やご家族様に、これまでの生活歴を伺い、普段のコミュニケーションからも情報収集出来るように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人様の無理のない様、見守り、声掛けを行い、ご本人様のペースで生活を送って頂いております。		

自己 評価	外部 評価	項 目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	入居者様それぞれの担当者が、モニタリングの見直しを行い、月に一度のフロアミーティングで意見交換し、その都度計画作成担当者へ相談し、介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やご本人様の訴えや対応など、個別に記録し、職員同士、申し送りノートを活用し情報を共有して、介護計画の見直しも活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご家族様やご本人様より、サービスの変更や追加があれば、そのニーズに対応し、支援が行えるように努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご本人様の意思を尊重し、職員はご本人様が、心身の力を発揮できるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に二回、協力医院の内科の先生の往診や、必要に応じて、歯科往診もお願いしております。急変時の連絡も密に行い、他病院への紹介なども行っています。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調不良や特変時には、看護師やかかりつけの医師へ相談し、適切なケアが受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、病院関係と情報交換し、お互いに看護、介護サマリーなどを送り、必要時退院前のカンファレンスに参加させて頂いています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際に、重度化した場合の受け入れ可能な施設への申込みを行って頂くよう助言したり、各事業所にも空き情報を聞くなどの支援にも取り組むようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修にて、救急隊員の方から、急変時の対応やAEDの使用方を、全職員が学習しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	半年に一度、災害訓練を行い、マニュアルを作成し、職員がそれぞれ対応出来るよう体制をつくり、年に一度隣接のこども園と合同で、災害訓練を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	『親しき仲にも礼儀あり』の言葉を意識し、入居者様一人一人に対し尊重し、又、身近な職員間にも同様に対応しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	水分補給の際には、入居者様それぞれが飲みたいものを、可能な限り提供し、自己決定出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様一人一人の思いや体調、今までの暮らし方に考慮し、ご本人の希望やペースに合わせ支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理容、美容、日常の中で髪の毛の整え方や、思いの服を着て頂けるように声掛け、見守りを行なっています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みの物をお聞きし、対応可能な限り、おやつ作りを合同で作っています。又、食事の際には、テーブル拭きや、食器洗いを手伝っていただいています。		

自己 評価	外部 評価	項 目(さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	疾病の為食事制限や水分制限のある方等、個々に合った支援を行っています。又、1日1000ml以上水分補給して頂けるように声掛けを行い、摂取量をその都度確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	起床後、毎食後に声掛け、一部介助、声掛けにて口腔ケアを行い、就寝前には、義歯を洗浄剤に浸け、翌日の朝装着して頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	声掛けや、ご本人様の希望により、トイレ誘導を行い必要時には職員が付き添い、なるべくトイレでの排泄援助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事量や水分量を随時確認し、申し送り等でも職員同士が声を掛けあい、体操などでも便秘の予防を図っています。主治医の指示での緩下剤も使用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週二回の入浴を実施し、ご本人様の希望やペースに合わせ、午前午後1対1の対応や、同性の職員での対応により、ゆっくりと安心して入って頂き、気分転換にフロアにて適時足浴も実施しています。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (さくら)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	室内の温度や湿度の調整、一人一人が安心して休息出来るよう個室対応にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医が処方された内服薬は、かかりつけの薬局にて管理して頂き、薬の効能、副作用が確認出来るようファイルに保管し、不明な点など薬剤師に相談し、助言を頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事や色々なレクリエーション、季節の展示品の作成等、無理のない範囲でご本人様の力を活かし、気分転換を図っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日光浴や散歩、車でのドライブ等で市内に行くこともあります。庭の畑仕事が出来るように環境を整えています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご本人様のお金の所持は、トラブルの原因となるので、当施設では、ご家族様からの預かり金を管理し、必要な際に出すようにしています。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ さくら ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人様が希望されれば、電話や手紙のやり取りが出来るよう支援し、電話の際も聞き取りやすい環境作りに努めています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	毎日の掃除をもとに、一日二回は換気を行い季節の花を飾ったり、作成した展示品など、居心地良く過ごしていただけよう工夫してます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブル、ソファ等、ご本人様の好みの所に座って頂き、会話をしたりテレビを見たり、趣味活動の範囲の拡大を図っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	危険のない導線を確保しながら、居室内のタンス、椅子などは使い慣れた物や好みの物を使用して頂き、居心地良く過ごして頂けるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すりやバリアフリー等の環境整備で、安心な環境作りを行っています。		

V アウトカム項目(さくら) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 あやめが丘グループホーム

作成日 令和2年4月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域とのつながり。運営推進会議への参加。	地域とのつながり強化。	事業所自体が地域の一員として日常的に交流していく。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は，行を追加すること。